# 一志郡一志町

# 上野山狐塚 4 号墳発掘調査報告

1990

三重県埋蔵文化財センター

三重県下の埋蔵文化財は、現時点で約11,400件ありますが、各種の開発事業等により更にその数が増加していくことは必至であります。埋蔵文化財の保護については、開発関係機関との協議をとおして御理解と御協力をいただき、その調整を図っているところでありますが、やむなく発掘調査を実施して記録保存を図る場合も年々増加してきております。

このようにして、上野山狐塚古墳群の一部も調整の結果、1号墳が現状保存され、4号墳とその周辺の発掘調査を実施いたしました。

ここに、その成果を報告いたしますとともに、発掘調査に際しま して関係機関各位の多大の御協力をいただきましたことを深く感謝 いたします。

平成3年3月

三重県埋蔵文化財センター 所長 中 林 昭 一

### 例 言

- 1. 本報告書は、三重県教育委員会と三重県企業庁との発掘調査委託契約により実施した一志郡一志町 大字高野字上野地内の高野浄水場内天日乾燥池増設に伴う上野山狐塚古墳群の発掘調査の結果をま とめたものである。
- 2. 調査は下記の体制で実施した。

調査主体 三重県教育委員会

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第1課第2係長 田中喜久男

- 3. 発掘調査後の出土品整理及び報告書作成は、三重県埋蔵文化財センター管理指導課及び調査第1課が担当した。
- 4. 方位は、磁北を用いた。遺構等の説明は、近い方位をとって石室「西壁」、「東壁」という表現を用いた。
- 5. スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。各図の 縮尺率はスケールバーを参照ください。

#### 目 次

| Ι       | 前 言   | 1 |
|---------|---|---|
|         | 1 調査にいたる経過                                  | 1 |
|         | 2 位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 |
| II      | 上野山狐塚1号墳・3号墳の調査                             | 3 |
| $\prod$ | 上野山狐塚 4 号墳の調査                               | 4 |
|         | 1 形状と構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 4 |
|         | 2 出土遺物                                      | 6 |
| IV      | その他調査区の調査                                   | 7 |
| V       | ま と め                                       | 8 |

#### 挿 図 目 次

#### 図版目次

| 第1図 | 遺跡位置図        | 1 | ΡL | 1 | 調査前全景、1号墳全景      |
|-----|--------------|---|----|---|------------------|
| 第2図 | 遺跡地形図        | 2 | ΡL | 2 | 調査区              |
| 第3図 | 1 号墳測量図      | 3 | ΡL | 3 | 4号墳全景、4号墳主体部     |
| 第4図 | 1・4 号墳と調査区図  | 4 | PL | 4 | 4 号墳石室奥壁、西壁      |
| 第5図 | 4 号墳石室実測図ほか  | 5 | ΡL | 5 | 奥壁の遺物出土状況、炉跡 2・3 |
| 第6図 | 4 号墳出土遺物実測図  | 7 | PL | 6 | 出土遺物             |
| 第7図 | 炉跡 2 ・ 3 実測図 | 8 |    |   |                  |

# I 前 言

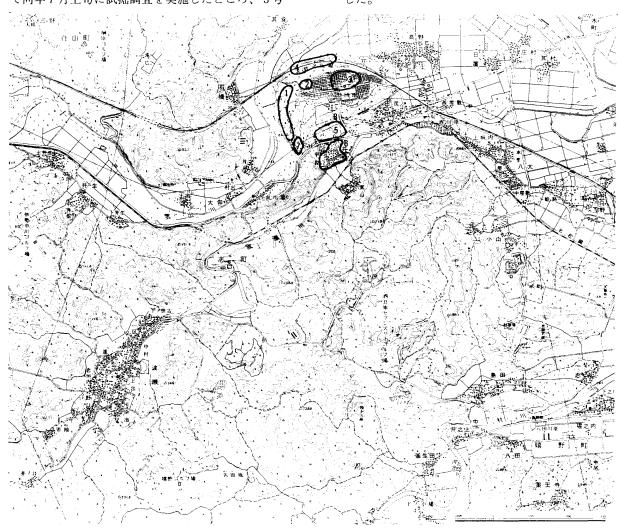
#### 1 調査にいたる経過

三重県埋蔵文化財センターでは、国及び県にかかる各種公共事業に関して前年度に照会し、事業計画 地内の埋蔵文化財の確認とその保護に努めている。

平成元年度、三重県企業庁中勢水道事務所から高 野浄水場の天日乾燥池増設の事業計画を受けたため、 早急に分布調査を実施したところ、計画地内に周知 の上野山狐塚古墳群3基を確認した。その後、この 取扱いについて協議をし、上野山狐塚1号墳は現状 保存とし、形状の明確でない3号墳と4号墳につい て同年7月上旬に試掘調査を実施したところ、3号 墳は自然地形と判明したが、この試掘トレンチで縄 文時代早期の土器細片や炉跡が検出され、また、4 号墳では、その周溝の一部を確認した。

この結果をもとに再度協議し、狐塚1号墳を計画 地内より除外して現状保存とすることと計画により 削平される部分600㎡については、平成2年度の夏 頃に発掘調査することで合意した。

調査は、企業庁との埋蔵文化財発掘調査委託契約 により平成2年7月1日から8月31日にかけて実施 した。



第1図 遺跡位置図(1:50,000) (国土地理院 大仰 1:25,000)

上野山狐塚古墳群(1) 上野遺跡(2) 上野山古墳群(3) 甲立古墳群(4)

丸山A遺跡(5) 平岩遺跡(6) 高岡遺跡(7) 丸山B遺跡(8)

#### 2 位置と環境

昭和55年度に刊行された『一志町史』を参考に上 野山狐塚古墳群(1)を概観すると、雲出川に接す る標高約50mの上野山の台地の西端の各尾根に所在 している11基の古墳群を呼称している。

狐塚と俗称される1号墳は、径20m、高さ1.9mの円墳で、当古墳群中最大の規模を有していて、墳丘中央部に盗掘坑らしき穴が認められ、近接して4号墳(本報告書掲載)がある。

また、行分田という谷をへだてた南側の尾根斜面の中腹には、径10m、高さ1.5mの5号墳がある。

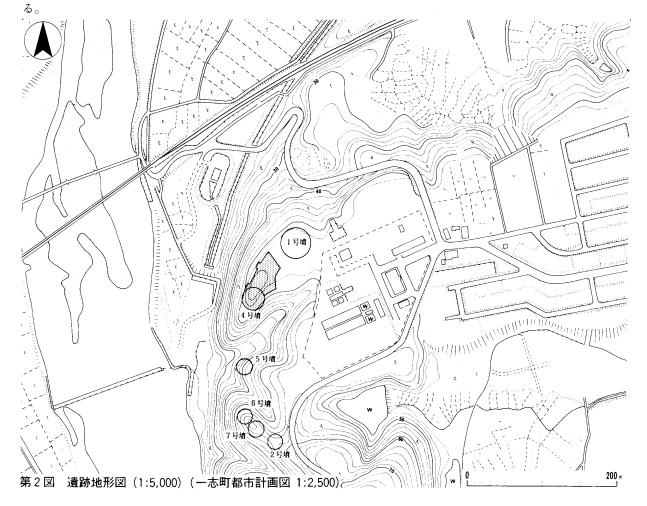
さらに南の尾根には、6号墳、7号墳、2号墳の3基があり、企業庁の浄水タンクの西側にのびる尾根端部に8号墳、9号墳の2基がある。10号墳、11号墳は径12m程度の古墳であるが、高岡公園として若干地形が変更されているため、原形は明確ではない。12号墳は、かなりはなれた南の丘陵にあって径13m程度の円墳と考えられ、墳丘頂部に盗掘坑があ

上野山狐塚古墳群の東には昭和44年企業庁の高野浄水場と県住宅供給公社の高野団地造成にともない発掘調査された上野遺跡 (2) と上野山古墳群(3) がある。その際、上野山古墳群中最大の規模をもつ、径27m、高さ5.1mの大塚と俗称される3号墳は、現状保存されている。(『上野遺跡・上野山古墳群発掘調査報告』一志町教育委員会 1971)上野山狐塚古墳群の北の台地に接続する下位段丘

上野山狐塚古墳群の北の台地に接続する下位段丘端部には、近鉄大阪線をはさんで15基の甲立古墳群(4)が所在する。

上野山狐塚古墳群の南には、弥生時代以降の丸山 A遺跡(5)、平岩遺跡(6)、奈良時代を中心と る高岡遺跡(7)、室町時代の丸山B遺跡(8)が ある。

このように、上野山と呼ばれる広大な台地やその 台地に接した下位段丘及び集落のある低位段丘には、 多くの遺跡や古墳が所在している。



# Ⅱ 上野山狐塚1号墳・3号墳の調査

上野山狐塚1号墳は、高野浄水場内で現状保存されることとなったので、今回の調査では地形測量のみを実施した。

径20m、高さ2.1mを測る円墳で、墳丘頂部には、1.5m×2.0mの盗掘坑があり、西側墳丘裾にかけてやや崩れているため、残りは良くない。

北から東にかけての墳丘裾には、周溝とみられる 浅い溝があるが、南側は、高野浄水場敷地により削 平されている。

上野山狐塚3号墳は、周知の古墳として登録されていたが、試掘調査の結果、自然地形と判明した。



# Ⅲ 上野山狐塚 4 号墳の調査

#### 1 形状と構造

#### (1) 墳丘

上野山狐塚 4 号墳は、大部分が破壊されていたため、古墳としての形状を殆どとどめていない。

現状では、径12m、高さ1.0mを測り、周りに浅い溝がのこる円墳である。

調査は、墳丘頂部と思われる部分を中心に十字にトレンチを設定して実施したところ、淡褐色粘質土の地山面より黒褐色弱粘質土層、暗褐色弱粘質土層明褐色弱粘質土層の3層の盛土が残っていることと北側から西側にかけてと南側に幅約1.2m、深さ約0.2m~0.3mの周溝が残っていることが判明した。

#### (2) 内部主体

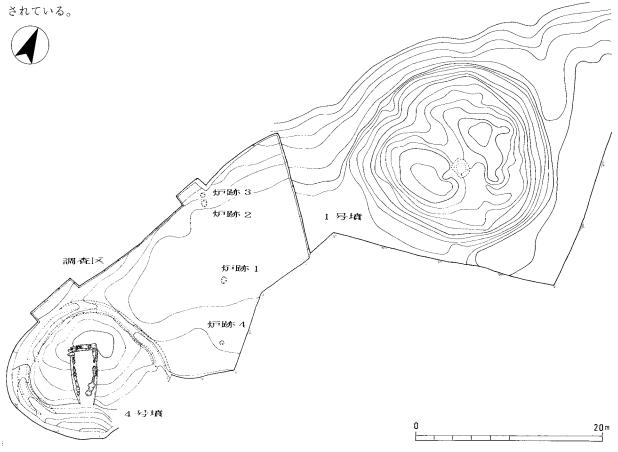
南東に開口する片袖の横穴式石室を持っているが、 後世の盗掘及び石材の抜き取り等により殆どが破壊 されている。 調査の結果、残存する石材や石材抜き取り痕から 玄室 長さ3.5m、奥壁 幅1.9m、玄門部幅1.5mの やや不定形な矩形を呈する。

奥壁は、長さ1.2m、幅0.7mと長さ0.8m、幅0.5mの石を並べて基底石としているが、天井部構造は、不明である。

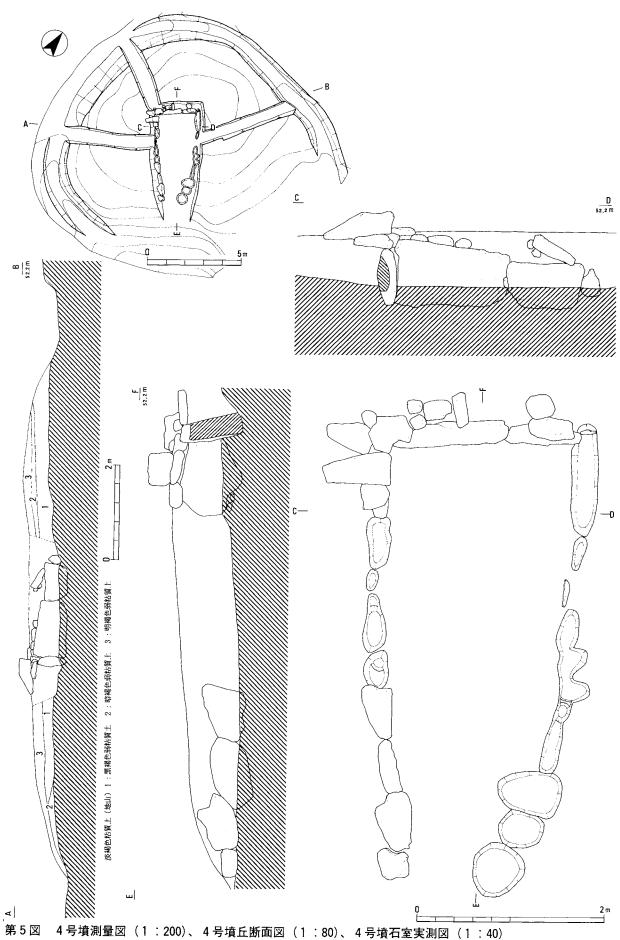
東壁は、殆どの石が抜かれているが、その抜き取り痕は検出できたので、片袖の横穴式石室であることが判明した。

西壁は、奥壁に近い部分が4個程抜かれているが、 羨道部分を含めて6個程の基底石が残存している。

羨道の残存の長さ1.0m、幅0.9mである。本来は、もう少し長かったと思われるが、後世の撹乱等により減失したものと考えられる。天井部構造は不明である。



第4回 1・4号墳と調査区 (1:400)



4号墳測量図(1:200)、4号墳丘断面図(1:80)、4号墳石室実測図(1:40)

#### 2 出土遺物

#### (1) 石室内出土遺物

須恵器杯蓋(1・2) 1と2は、ともに奥壁付近から出土した。1は、口径15cm、器高4cm、口縁部約1/4が欠損しているが、焼成は良好、胎土は粗で青灰色を呈する。天井部は、ロクロヘラケズリを、他の部分は、ロクロナデで調整して、天井部と体部に稜線がのこる。口縁端部はやや内傾して丸く終わる。2は、口径14cm、器高4.5cm、ほぼ完形、焼成は良好、胎土はやや粗で、灰色を呈する。天井部は、ロクロヘラケズリを、他の部分は、ロクロナデで調整して、天井部と体部に稜線がのこる。口縁端部は内傾してやや凹面を作る。

須恵器杯身(3・4) 3は奥壁付近から出土。 口径11.6cm、器高4.6cm、完形であるが焼き歪みが ある。焼成は良好、胎土は密で、灰色を呈する。体 部から底部にかけてロクロヘラケズリを、他の部分 は、ロクロナデで調整する。受部はやや水平にのび、 口縁端部は、内傾してやや鋭く収める。4は石室内 埋土から出土。口径12.4cm、器高4.8cm、3/4が 残存しているが、焼き歪みがある。 焼成は良好、 胎土はやや密で、灰色を呈する。体部から底部にか けてロクロヘラケズリを、他の部分はロクロナデで 調整する。受部はやや外上方にのび、口縁端部は、 内傾してやや鋭く収める。

須惠器高杯(5) 玄門付近から出土。口径15cm、器高9.6cm、脚部高5.6cm、脚底部径7cmで完形。焼成は良好、胎土は密で、灰色を呈する。杯部の体部から底部にかけてヘラケズリを、他の部分は、ロクロナデで調整している。口縁部は、やや開きぎみに丸く収める。脚部下方に一段3方向の丸い透かし孔を配し、脚底部は八の字状に開き、端部は肥厚して丸く収める。

**須恵器短頸壷**(6・7) 6は奥壁付近から出土。 口径8.1cm、器高7.8cm、完形。焼成は良好、胎土は 密で、灰色を呈する。底部にかけてヘラケズリを、 他の部分は、ロクロナデで調整している。頸部から 口縁部にかけては、やや内傾してたちあがり口縁端 部は、内傾する平面となる。7は石室内埋土から出 土。口径7.2cm、器高8.4cm、3/4残存。焼成は良好、胎土はやや粗で青灰色を呈する。底部にかけてヘラケズリを、他の部分は、ロクロナデで調整している。頸部から口縁部にかけては、やや内傾してたちあがり、口縁端部は、内傾する平面となる。

**須恵器壷** (8) 石室内埋土から出土。口径13.3 cm、口縁部 2 / 3 残存。焼成は良好、胎土はやや粗で、暗青灰色を呈する。口縁部は外弯しながら開き、口縁端部は上下に肥厚して収める。

須恵器提瓶 (9) 石室内埋土から出土。口径 10.2cm、器高26.7cm、ほぼ完形。焼成は良好、胎土 は密で、灰色を呈する。体部は前面がふくれ、背面 は平坦で、頸部からやや開きぎみにたちあがり口縁 端部は強く外反して受口状となる。肩部には、環状 把手が 3 個つく。前面は、タタキの後でロクロナデ で調整をしていて、底部はタタキが残る。他の部分 は、ロクロナデで調整する。

土師器高杯(10~12) いずれも奥壁付近から出土していて、口径12.1cm、器高6.2~6.8cm、脚部高1.8~2 cm、脚底部径6~6.4cmでほとんどが完形である。焼成はやや軟、胎土は粗又はやや密で、橙色を呈する。杯部は椀状で、口縁部は、ややくびれながらたちあがり、口縁端部はややまるく尖って終わる。ユビオサエやナデで調整している。脚部は八の字状に開き、脚底端部はやや肥厚して丸く収める。

**鉄製品** (13・14) いずれも石室内埋土出土。13 は、有茎鉄鏃の腸抉三角形鏃で、残存長 5 cm、幅 1.6cmである。14は、刀子の一部と考えられ残存長 4.6cm、幅 1 ~1.4cmである。

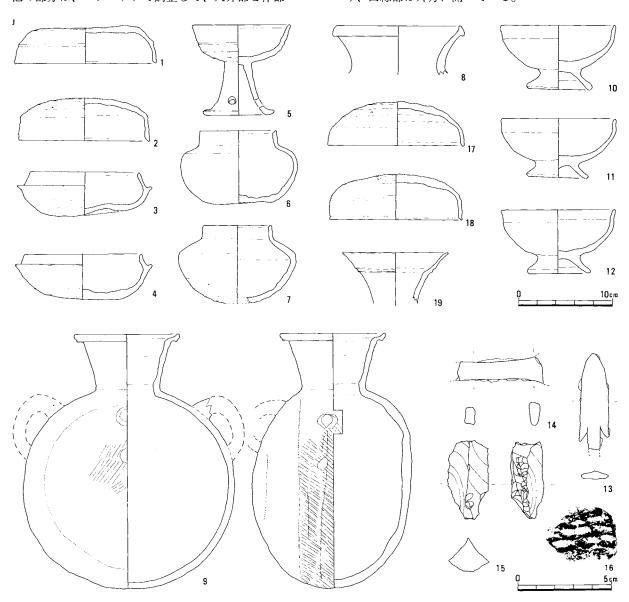
その他の遺物(15・16) いずれも石室内埋土出土で、15は、サヌカイトの剥片。16は、押型文土器片で、焼成はやや軟、胎土はやや粗、浅黄橙色を呈する。

#### (2) 石室外出土遺物

**須恵器杯蓋** (17・18) 17は墳丘から出土。口径 14.4cm、器高4.6cm、ほぼ完形。焼成は良好、胎土 はやや粗で、灰色を呈する。天井部は、ロクロヘラ ケズリを、他の部分は、ロクロナデで調整して、天井部と体部の稜線はあまり残っていない。口縁端部はやや丸く収める。18は、周溝から出土。口径14cm、器高4.8cm、ほぼ完形。焼成は良好、胎土は密で、青灰色を呈する。天井部は、ロクロヘラケズリを、他の部分は、ロクロナデで調整して、天井部と体部

の稜線は凹線状となっている。口縁端部は、内傾す る凹面となる。

須恵器 (19) 墳丘から出土。口径11.2cmで口縁部1/4残存。焼成は良好、胎土はやや密で、青灰色を呈する。頸部と口縁部との境は明瞭な段があり、口縁部は外方に開いている。



第6図 4号墳出土遺物実測図(1~12、17~19は1:4、13~16は1:2)

# N その他調査区の調査

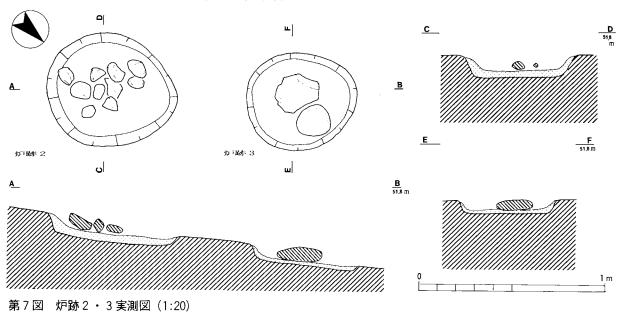
上野山狐塚 3 号墳の試掘調査の結果、 3 号墳は、 自然地形であることが判明したが、その際、縄文時 代の押型文土器細片と炉跡らしきものが検出された ため、この地区から 4 号墳にかけての部分を調査必 要地区として調査した。

炉跡(1~4) 表土下30cm~40cmの淡褐色弱粘 質土層(地山面)で、浅い土坑を4基検出した。

土坑の周囲から底部にかけては、厚く焼土化して

いて、その埋土中には、炭化物、焼土塊及び小礫が 混在しているものの遺物は確認できなかった。

また、その他の関連する遺構も確認できなかった。 残存状況の良好な  $2 \cdot 3$  についてみてみると、 2 は、径60cm×70cm、検出面からの深さ 5 cm $\sim 10$ cmのほぼ円形状の土坑で、 5 cm $\sim 6$  cmの厚さで焼土、炭 化物が層となっている。土坑中に径5cm~10cm程の小礫がおかれている。3は、径55cm×63cm、検出面からの深さ4cm~8cmのほぼ円形状の土坑で、2cm~3cmの厚さで焼土、炭化物が層となっている。土坑中に径20~25cm程の礫がおかれている。



# V ま と め

今回調査を実施した結果を簡単にまとめてみると、 上野山狐塚 4 号墳は、片袖の横穴式石室をもつ円墳 で、その出土遺物から6世紀半ば前後(『陶邑古窯 跡群 I』 平安学園考古学クラブ、1966の須恵器型式 では、T K 10に比定できる。)と考えられる。

上野山狐塚 4 号墳の東方約1.1kmにあった上野山 古墳群(昭和45年一志町教育委員会により発掘調査 され、『上野遺跡・上野山古墳群発掘調査報告』で は、3世紀代から7世紀半ばに造営された古墳群で、 横穴式石室や石棺が確認されている。)と上野山狐 塚 4 号墳と比較することは、石室のプランや規模に それぞれ差異があり困難であるが、同じ上野山台地 上に立地する古墳群として、今後の資料の増加をまっ て検討する必要があると考える。

また、検出された炉跡の時期は、試掘調査の際に出土した押型文土器の細片と4号墳の石室内埋土から出土した押型文土器及び遺構の状況よりみて、縄文時代早期の屋外炉である可能性があるが、断定することは困難であるため、これも、今後の資料の増加をまって再検討する必要があると考える。

(伊藤克幸)

# 図版



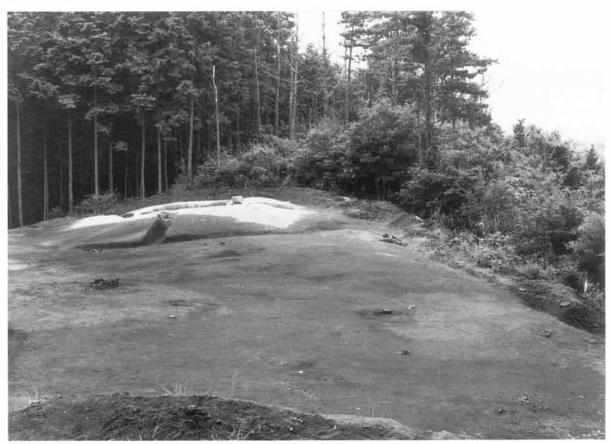
調査前全景 (東から)



1号墳全景(南東から)



調査区(東から)



調査区 (北から)



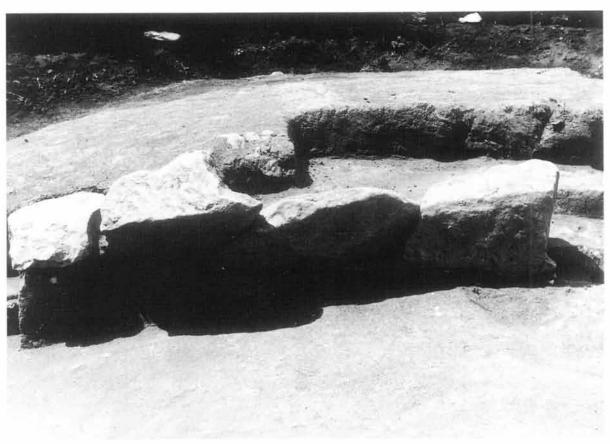
4号墳全景 (南東から)



4号墳主体部(南東から)



4号墳石室奥壁(南東から)



4号墳石室西壁(北東から)



4号墳石室奥壁の遺物出土状況(南東から)



炉跡2・3(南西から)



出土遺物(1:3)

平成2(1990)年3月に刊行されたもをもとに 平成18(2006)年12月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告書 96

# 上野山狐塚 4 号墳発掘調査報告

1990 年 3月31日

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター 印 刷 東海印刷株式会社